

<b>事務局長会議報告</b>	12月13日			
-----------------	--------	--	--	--

**出席会** 川崎労山、川崎HC、AC横浜、横浜HC、横浜わらび、横浜こぶし、藤沢、相模労山、みずなら、久良岐HC、カモの会、白嶺岳和会、地平線、やま++ 以上14会

**県連からの報告：**

- 救助隊トレーニング 1月21、22日の案内
- 全国自然保護集会の報告
- 関東ブロック雪崩講習会の案内
- 事故の報告 リーダー学校の生徒（一般）幕岩のアプローチ  
2月11～12日 全国雪崩講習会 山スキー

**活動報告** 川崎HC バスハイク実施（長者ヶ岳）、久良岐HC 公開ハイク実施（弘法山）  
藤沢山の会 地元の公民館祭りに出展（写真展、プローチ作り等）

**県連のスケジュール**

1月		2月		3月	
1	日	1	水	1	水
2	日	2	木	2	木
3	火	3	金	3	金
4	水	4	土	4	土
5	木 常任理事会	5	日 常任理事会	5	日
6	金	6	月	6	月 常任理事会
7	土	7	火	7	火
8	日	8	水	8	水
9	日	9	木	9	木
10	火 事務局長会議	10	金	10	金
11	水	11	土	11	日
12	木	12	日	12	日 総会
13	金	13	月	13	月
14	土 関東ブロック雪崩講習会	14	火 事務局長会議	14	火
15	日 関東ブロック雪崩講習会	15	水	15	水
16	月 事務局部会	16	木	16	木 教育部会
17	火 リーダ学校机上 教育部会	17	金	17	金
18	水	18	土	18	土
19	木	19	日	19	日
20	金	20	月 事務局部会	20	月 事務局部会
21	土 救助隊トレ	21	火 リーダ学校机上 教育部会	21	火 リーダ学校机上
22	日 救助隊トレ	22	水	22	水
23	月 山スキー懇談会	23	木	23	木
24	火	24	金	24	金
25	水	25	土 リーダ学校実技 関東ブロック救助隊交流集会	25	土 リーダ学校実技
26	木	26	日 リーダ学校実技 関東ブロック救助隊交流集会	26	日 リーダ学校実技
27	金	27	月 クリーンハイク第2回	27	月 クリーンハイク第3回
28	土 リーダ学校実技	28	火	28	火 遭対部会
29	日 リーダ学校実技			29	水
30	月 クリーンハイク実委第1回			30	木
31	火 遭対部会			31	金

連盟ニュース

252

# 神奈川 1

2006.1.10



三枝木さん(横浜HC)撮影

神奈川県連盟を代表してあいさつ	理事長 中山 建生	2
警告！冬季山行への注意を	遭難対策部	3
ハイキングクラブ懇談会の総括		4
湘南平ウォーキングと平塚市博物館見学	藤沢山の会・萩原 福子	5
大河内彩子さんへ贈る追悼文	遭対部長代行 鳥越 章夫	6
『送る言葉』	県連副理事 兼 救助隊副隊長 入木田実文	7
『残念無念』	救助隊隊長 熊谷 修治	7
2005 労山フェスタに参加して	みずなら山の会 金森 雅子	8
フェスタの感想	相模労山 香取 静子	8
自然保護委員会報告		9
事務局長会議報告		12
神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定		10
第3回山スキー懇談会のお知らせ		11
県連のスケジュール		12

神奈川県勤労者山岳連盟  
〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3階  
発行責任者 中山 建生 編集責任者 村松 勝  
TEL/FAX 045-434-2726 http://www.k-rouzan.net/

# 神奈川県連盟を代表してあいさつ 各会の会員に願うこと

2006.1.5 理事長 中山 建生

年を経ると共に若い頃の未熟で、無鉄砲で、情熱的に行動したことを懐かしく思うのか、いまはもうそうした気持ちと行動できないことを淋しく受けとめるのか、はたまた中高年になってもエネルギーを燃やし続けるのか、人それぞれに今を生きているのだと思います。

県連盟もひとつの大きな転換点にさしかかりました。労山活動の原点には登山を通じての世直し運動とも言える5つの原則に基づいた活動がありました。連盟の呼掛けにもその精神は受け継がれています。

昨年、清里にて労山フェスティバルが開かれました。これまでの活動を再点検したいという気持ちで参加した人たち、若い頃の仲間たちに再会したいという気持ちで参加した人たち、少数でしたが、どんな人達が集まるのか興味津々の人たち、いずれも労山の活動の原点を体験した人たちか、連盟活動に加わっている人たちでした。

神奈川県でもこのフェスティバルに39名が参加しましたが、多くは何の関心も興味も持たなかった人達がいました。会の活動でも同じようなことが言えます。自分の好きなことはしても、会の仕事や全体の活動には加わってこないのです。そのことを誰もが間違っているといいます。しかし、これを改めるような具体的な活動を実行しないのです。その理由は明白です。一生懸命やればやるほど馬鹿を見るという思いを強くするからです。なにもしないのでは自分も納得できないため、総会の方針には、役割分担とか全体に目を向けると提案されても、自分はどうするのか、あなたはどうするのかを問いただすことまでは討議しないために、あとは適当にこなしてしまします。本来組織的な活動とは自らの意思で決定を行ない、これに参加するというルールが成り立っていないかではありません。

山岳会が集団的な人の集まりであることは明白です。にも関わらず、組織としての機能と習熟の土合がきわめて低いため、少数の役員の負担が高くなり、やがては不満が鬱積するまで放置されるのです。この問題も当然解決できるのですが、放置しておくため、矛盾がかさなり、実際にはどこから手をつけて良いのか分からないのです。本来楽しいはずの山岳会活動がつまらない愚痴と不満の渦に巻き込まれ、ここから離れようとして、自分が当事者であることも忘れて、この場を離れるのですから、これは無責任と糾弾されてもしかたのないことです。

さて山岳活動が活発に楽しく行えるためには、会員一人一人が現状を変えようとしなくてはなりません。できること、やれることは無数にあるのですから、そこに焦点を合わせてみましょう。できないことを考えるから物事が煩わしいやなことへと暗転するのです。あなたができることはなんでしょうか。ただ、野放図に従来の生活を続けていては楽を求めるといふより、何もしない=怠惰な世界に再び浸るだけでしょう。自分の人生を豊かにするのも、貧しくするのもあなた自身です。連盟は組織として全体の利益や要求を可能な限り実現するために、あなたの熱意と行動力を必要とします。それはあなたが神奈川県連盟に所属する山岳会の会員であるからです。改めて労山の原点に立ち返ってみましょう。



## アルパインクラブ横浜 報告 熊谷博美 計42名(男23:女19)平均37.4歳

12/10-11 雪上訓練	12/21 運営委員会	1/18 運営委員会	2/18-19 深雪訓練
12/14 例会	12/27 例会	1/24 例会	2/28 例会
12/20 雪山ミーティング	1/11 例会	2/8 例会	

## 川崎勤労者山岳会 報告:佐々木利江 計58名(男36 女22)平均40歳

12/3-4 県・登)1名	12/23-25 FC伊豆・城山4名	1/29 新年例会
12/4 FC伊豆・城が崎5名	12/25 八ヶ岳・扇山5名	1/14-15 登)雪山・八ヶ岳・天狗
12/9-11 登)雪トレ・谷川岳・天神尾根15名	12/31-1/2 PH日光白根山5名	1/27 「あざみ」編集
12/10-11 雪トレ・谷川岳・天神尾根7名	1/2-3 大菩薩4名	1/28 「あざみ」印刷
12/17-18 山)雪トレ・谷川岳・西黒尾根12名	1/2-3 八ヶ岳・硫黄岳3名	2/8 山行部会
	その他9の山行	2/15 運営委員会
	1/18 運営委員会	2/22 例会
	1/25 40周年記念実行委員会	

## やま++ 報告 柴田勇作 計12名(男8:女4)平均46歳

12/ 丹沢・大山三峰マイナールート(10)	12/21 例会・百合丘(11+1)	1/15 スノーハイク
12/11 RCT・鷹取山(6)	12/25 (4+1)	1/14-15 関東ブロック雪崩講習会
12/14 勉強会・百合丘(冬山の歩き方、山スキー)(12+1)	12/29-31 南八・硫黄岳(3)	1/21-22 新年会・葉留日野山荘
12/18 北八・縞枯山スノーハイク(5)	1/2-4 飛騨高山・テレマークスキー	1/25 例会・百合丘(冬山、雪崩)
	1/8-9 雪山テント泊	1/28 富士山・双子山 山スキー
	1/11 勉強会・百合丘(フィールドマーク、山スキー)	

## こまくさハイキングクラブ 報告 山田日出子 計18名(男4:女14)平均61歳

12/1 忘年山行大楠山
--------------

## 久良岐ハイキングクラブ 報告 三上茂 計9名(男4女5) 平均58歳

12/3 室内例会(4)	山(4+1)	1/15 足柄万葉公園	2/4 第16回総会
12/17-18 望年山行三頭	1/3 金時山(1+1)	1/27 役員会	2/19 曾我山

## 川崎柴笛クラブ 計22名(男16 女6)

12/3 RCT城ヶ崎	12/10-11 堅雪トレ	12/23-24 裏同心ルンゼ	1/18 定例会集
12/4 冬山基礎トレ	12/14 遭難対策・机上講習会	12/29-1/3 冬合宿	2/4-5 深雪トレ
12/10-11 春日溪谷		1/11 常任委員会	

## カモの会 計77名(男46 女31) 平均33.9歳

12/23 春日溪谷アイス	1/7 黒斑山	1/14-15 武尊山	2/4-5 阿弥陀南稜
12/28 城山FC	1/8 八ヶ岳アイス	1/15 笹尾根ハイク	2/11-12 奥鬼怒/加仁湯
12/29-1/1 槍ヶ岳	1/9 広沢寺岩トレ	1/21-22 赤岳	
12/29-30 天狗岳	1/11 運営委員会	1/21 西丹沢/大野山	
12/29-31 白馬SKI	1/14-15 山SKI雪訓	1/24 集会	

## 雪重山の会 計20名(男14 女6) 平均39歳

12/31-1/2 仙丈岳(1+1)	12/30-1/3 穂高明神岳(2)	1/5-6 天狗岳(2)
12/31-1/2 甲武信岳(1+1)	1/3 丹沢大倉尾根(2)	

## 第3回山スキー懇談会の案内

各会の山スキー・山ボードの代表者または、山スキー・山ボードで関心ある人は積極的に参加してください。

日時 1月23日 19時
場所 県連事務所
内容 情報交換と今後の取り組み。

## 神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定

### 横浜わらび山の会 報告：野尻邦夫 計18名 (男6 女12)

12/4 忘年会(23)	12/15 鍋割山(3)	1/4 三頭山	2/5 滝子山
12/10 菊花山(4)	12/17 九鬼山(2)	1/15 大山北尾根	2/19 浅間嶺
12/10 大山(4)	12/18 大仏切り通し(14)	1/22 シーサイドハイク	2/26 大船周辺ハイク
12/14 菊花山(2)	12/23~24 雲取山(8)	観音崎	

### 川崎ハイキングクラブ 報告 樋渡輝彦 計106名(男48 女58)平均57歳

11/16 大室山(4)	( 15)	12/23 鶴ヶ鳥屋山	1/11 運営委員会
11/20 金撞堂山(4)	12/10-11 三頭山(8)	12/25 弁天山	1/14 大山
11/20 天園(5)	12/10-11 不老山・大野山(11)	12/28 例会	1/18 ユガテ-越上山-顔振峠
11/20 権現山(9)	12/11-12 清和県民の森(16)	12/31-1/1 高ボッチ山	1/22 新年会
11/27 長者ヶ岳・公開ハイク(22+26)	12/14 運営委員会	1/3-5 天狗岳-硫黄岳	1/29 弁天山・新春ハイク
11/30 例会(36)	12/17 湯坂道	1/8 東京名所散策・例会山行	
12/4 高川山・例会山行		1/9 七福神巡り	

### 横浜こぶしの会 報告 田辺美由紀 計25名(男15人 女10人) 平均年齢49歳

12/3 忘年会	岳、天神平(6)	が岳(4)	1/27-29 日光白根山
12/8 例会	12/18 頭高山(ヤッホー合同山行)	1/12 例会	2/9 例会
12/11 シタンゴ山(1+6)		1/22 会低山	2/21 例会
12/17-18 雪トレ、谷川	12/31-1/2 正月山行・蝶	1/24 例会	2月末 深雪トレ

### 横浜ハイキングクラブ 報告 池上準子 計58名(男21:女37)平均59歳

12/3 二十六夜山(6)	1/4 嵯峨山	1/22 景信山餅搗き山行	2/22-23 日光戦場ヶ原
12/16 天覚山-大高山(8)	1/8 鎌倉巡礼路と天園ハイキング	1/29 浅間嶺	2/26 シタンゴ山
12/17-18 丹沢主縦走()		2/4-5 北八ヶ岳	
12/23 沼津アルプス	1/12 例会	2/9 例会	
12/25 白山・飯山観音	1/14-16 松之山温泉スキー	2/10-12 湯沢パークスキー	

### 相模勤労者山岳会 報告 蝦名政次 計40名(男25:女15)平均51.8歳

12/14 第1例会	12/21 第2例会	斐駒ヶ岳	
12/16 忘年会	1/7-9 新人冬山山行・甲		

### 小田原ナーゲル 報告 春日谷

12/3 湯河原 幕岩(岩トレ)(3)	12/4 檜洞丸(8)	12/19-20 赤岳主稜(1+1)	1/14 矢倉岳
12/3 権現山-屏風岩山-畦ヶ丸(1)	12/10 湯河原 幕岩(岩トレ)(2)	12/28 運営委員会	1/26 運営委員会
	12/11 シダンゴ山(8)	12/7-8 大同心ルンゼ	2/8 定例ミーティング
		1/11 定例ミーティング	2/23 運営委員会

### みずなら山の会 報告 小川眞澄 計33名(男20名 女13名)平均年齢53歳

12/4 高尾山景信山(忘年山行)	12/14 例会	12/30-1/1 赤岳	1/14-15 関東ブロック雪崩講習
12/7 雪崩講習会	12/17-18 谷川(雪トレ)	1/3 新年山行(鍋割)	1/15 天城山
12/10 幕岩	12/20 運営委員会	1/3-4 編笠山	1/15 堂満岳
12/11 十二ヶ岳	12/25 幕岩	1/4 幕岩	2/3-5 だいくらスキー
12/14 広沢寺	12/25 大山三峰山	1/4-5 赤岳	
	12/29-30 金峰山	1/7-9 鳳凰三山	

### 藤沢山の会 報告 清水 守 計98名(男41:女57)平均59歳

12/3 矢倉岳(8)	12/17-18 忘年山行・西	1/7 陣馬山	2/12 雪山ハイク三国山
12/3 湘南平・県(6)	丹沢10コース(50)	1/14 石老山	2/8-18 ニュージランド
12/12 大山北尾根(5)	12/23-24 北八ヶ岳	1/21-22 雪山実技山行・富士山	
12/14-18 キナバル	他10山行		

## 警告！冬季山行への注意を

2006.01.07 神奈川県連・遭難対策部

既にご存じの通り、この冬の日本列島は例年に無い大寒波に見舞われ、強い冬型の気圧配置が続いています。そのため北アルプス北部、谷川岳など、日本海側を中心とした山岳地帯の積雪が例年の2倍近くとなり、いたるところで表層新雪雪崩が頻発しています。

### 既に発生している主な事故

- 『北ア明神岳で雪崩、50歳男性が意識不明』(2006年1月4日21時31分 読売新聞)  
大阪市の男性2名(40~50代)が北アルプス・明神岳から下山中に「雪崩に巻き込まれた」と110番通報があった。1名は自力下山したがもう1名は意識不明の重体で取り残されている。現場付近は強風と雪でヘリコプターが近づけず、天候の回復を待って救助に向かう。
- 『新潟のスキー場で雪崩相次ぐ』(2006年01月04日 11:21 スポーツニッポン)  
新潟県湯沢町のスキー場4カ所ですべて3日、雪崩が相次いで発生、スキー場従業員や客計26人が巻き込まれ、うち1人が重傷、9人が軽傷を負った。南魚沼署の調べでは、雪崩は幅約5メートル、長さ約25メートルだった。
- 『山・スキー場で雪崩続発』(2006年1月5日(木)「しんぶん赤旗」)  
表層雪崩に注意、スピード速く100~200km/h。到達距離が長いのが特徴。

### 冬季・積雪エリアへの山行(+スキー/ボード)に関する注意

- 『三種の神器(ピーコン、スコップ、プローブ 1)を持参』  
雪の斜面があれば雪崩が起きると思い、必ず持参してください。
- 『凍傷に注意を』  
凍傷になりやすい部位は、眉間・頬骨・鼻(外気にさらされる部位)および、上肢指先・下肢指先(身体の抹消部)です。対策としては目出し帽などで外気から保護すると同時に体全体の保温、水分の十分な摂取が大切です。体調不良(睡眠不足など)の時は特にご注意ください。吹雪の中を必死で行動している時は気付かず、下山してから凍傷になっていることがあります。手先足先は常に動かして感覚を維持するように。グローブは必ずスペアを持参。靴は保温性の高い靴を使用。また、風は体感温度を低下させ、風速10mで-10下がると思われます。八ヶ岳などの強風エリアでは十分注意してください。山行中はメンバー同士が互いに気をつけあうことが大切です。
- 『歩行の基礎を見直してください』  
普段の夏山では気にならない『バランスの崩れ』も滑りやすい冬山では顕著に現れます。歩行の基礎とバランスをしっかりと確認して下さい。登攀技術に目を奪われて、案外おろそかになっている方を登山学校などで多く見かけます。
- 『入念な計画書の作成を』  
ルートの情報収集、食料なども十分に用意し、事前の準備を怠らないようにお願いします。会および管轄警察への届け出はもちろん、事前に会の山行管理などのチェックが必要です。
- 『従来の経験に頼りすぎない』  
『敵を知り己を知る』とは言いますが、記録的な豪雪で「従来の経験則が役に立たない」ことも考慮しましょう。普段なら起きないはずの場所で雪崩が起きる、想像以上のラッセルで計画が狂うなど。無理をせず十分な注意を持って臨んでください。

以上、どうぞよろしくお願ひいたします。

1 『ゾンデ棒』を英語で発音したもの

# ハイキングクラブ懇談会 (第1回～第5回)の総括

首記懇談会は、県連所属のハイキングクラブで構成、会が抱える運営上の諸課題交換の場として発足しました。第1回は17年2月に開催、既に第5回を数えました。今後は、この間交換しました課題をベ-スに行動の方向及び課題解決の方策が議論の主体になると存じ、次のとおり総括しておきましたので、ご活用下さるよう願います。

## 1. 全国労山とハイキングクラブとの問題

- (1) 大きなハイキングクラブが脱会する根拠は、全国連盟・県連盟・新スポへの納付金が会運営上に重い負担になっている事が挙げられる。
- (2) 連盟における活動の主体が山岳会にあるため、ハイキングクラブにとって活用の範囲に魅力が持てない。これが関心の薄さに繋がっている。
- (3) 新会員は、中高年者・ツア-登山に馴染らされた方が多く、単に仲間とのハイキング・登山を楽しむことで入会している。労山は、歴史に執着しこの延長線で物事を考えているのではないか。広がりを見せている輪に新しい魅力が提示できなければ、存在価値は高まらない。
- (4) ハイキングクラブの連盟加入メリットは、リ-ダ-学校・セルフレスキュー-講習・遭難捜索救助・遭対基金・全国県連盟からの情報及び地方連盟下の機関誌活用・会員割引などが挙げられる。会の活用度合いを別として会を含めPRの不足はいなめない。

## 2. 新会員の受け入れ体制

- (1) 現状は、高齢者の受け入れになっている。
- (2) 新会員の特徴は、新人対象のハイキングに参加しない、個人山行が多く、自分のレベルを知らない知らしめない。
- (3) 新会員の教育指導と山行の呼びかけに負担が掛かっている。
- (4) 教育の基本的テ-マは歩き方であるが、技量に差があり過ぎる、それと高齢者の

教育に疑問がある。

- (5) 自分の運動能力(平衡感覚・筋力の低下)を知る機会をつくる。
  - (6) 技量を身につけると退会されるのは残念である。
- ## 3. 事故防止対策
- (1) ヒヤリハットは、普通のところで起きている。
  - (2) 連泊での体力・睡眠不足により事故が起きている。
  - (3) 会員の高齢化は、ヒヤリハットの増加・捻挫骨折をも発生させている。対処方法の確立が求められる。
  - (4) 登山は、命を掛けたサバイバルゲームである、事故に対する認識の甘さが払拭できていない。
  - (5) 無理な計画・脚力や体力不足・バランスの低下を強く周知させる必要がある。
  - (6) 転倒・転落の防止策として、周到な準備・無理のない行動予定・トレ-ニング対策・食事と共に日常の健康管理・危険箇所の安全通過・装備服装の軽量化が挙げられる。
  - (7) 道迷いの防止策として、思い込みや不注意・地図やコンパスの活用・読図力をつける事が挙げられる。
  - (8) 会員は、事故報告の開示を嫌がるが、事故防止に有効な手段であることを認識させる必要がある。

## 4. 事故発生時の対応

- (1) 留守宅の対応・救助隊の編成とその行動の迅速化が挙げられる。
- (2) 計画書の重要性が生きてくる。計画書の簡略化は逆行である。
- (3) 事故発生時の行動の一步は、全国連盟・県連盟への通報である。次に会の判断による県連救助隊の出動要請である。
- (4) 遭対基金の申請は、事故者だけでは纏まらない。本人からの事故報告受領後、担当者が代行し、必要書類の作成・申請手続きを行うのが効率的である。

## 自然保護委員会報告

2005年12月27日 記録=羽生田

出席者 児玉(カモの会)、三枝木(横浜HC)、三上(久良岐HC)、磯部・吉岡・小林(地平線の会)、羽生田(AC横浜)、以上7名。

場所：県連事務所 時間：19:30～21:00

### 1. クリーンハイクについて

#### 1) 実行委員について

・各会の自然保護委員が実行委員となる。自然保護委員がいない会からは、実行委員を出してもらう。

・クリーンハイク実行委員長は自然保護委員長が務める。理由は、実行委員長は外渉の役目をもつので、経験があり状況が把握できている人、対外的に立場がしっかりしている人が良いため。

#### 2) 本部の設置について

・大倉本部のみとする。

#### 3) コースについて

・今年度のものをベースに1月の自然保護委員会で検討する。

#### 4) 一般参加の受け入れについて

・どのような人が参加するかわからないので安全面を考慮し、一般参加は危険の少ないコースに限定する。

・一般を受け入れ可能な会にそのコースを対応してもらうよう、事前に連絡しておく。

・一般参加のしめきりを余裕をもたせて設定し、詳細な対応をする。

・しめきりをすぎて申し込まれたものは、林道の清掃など危険の極く少ないコースで対応する。

・保険代として1000円～2000円の実費を参加費とすることを検討する。

#### 5) チラシについて

・チラシのたたき台は児玉が1月に持ってくる。

・県連山岳会用と、一般用のチラシは分ける。一般用には、一般の方が参加可能なコースのみを掲載する。

#### 6) 水質調査について

・水質担当実行委員を募集する必要がある。

・水質担当実行委員の役割は、ルート設定、当日の待機など。

・毎年マニュアルは1月の実行委員会の時に出す。

・水質担当実行委員は自然保護委員に限らず、水質に興味のある人でミーティングに参加できる人が良い。

・今年度まで担当していた小林は今後、会議に

は出席しにくい状況になるので、水質に関する会議の進め方などは追って検討する。

### 7) 遭対部との調整について

・遭対部のミーティング(1月31日)に合わせてコースを決定し、連絡する。

### 8) 今後のスケジュール

1月中：後援、協賛の依頼  
1月30日：自然保護委員会(コース決定  
2月の県連ニュースに掲載する、役割決め、チラシたたき台確認)  
2月中：後援、協賛の承諾を得る  
2月27日：自然保護委員会(チラシの確認など)

3月始：チラシ完成  
3月12日：県連の総会にてチラシ配付  
3月27日：自然保護委員会(各会のリーダー等体制の確認)

(3月末～4月始：下見と山小屋の意見を聞きに行く)

4月24日：自然保護委員会(実務調整)  
4月30日：一般締め切り  
5月15日：最終実行委員会  
5月19日(または22日)：最終全体ミーティング

5月27・28日：当日

### 9) その他

・県連事務所にラックをつくり、届いた一般申し込みはそこに入れてもらうようにする。(紛失を防止する)

・クリーンハイクに関する各役割の案は磯部が1月に持ってくる。

・委員長高橋より伝言：県の自然センターに行ったところ、是非今年もクリーンハイクを行って下さいとのことだった。1月に後援の承諾を取りに行くので、その時に産廃に関する話などをしてくるつもり。

・自然保護委員=クリーンハイクというイメージがあるので、それを変えたい。

・将来は、クリーンハイクに一般の人を多く受け入れられるようにしたい。ゴミを拾うことよりも、活動を広げていくことを目標にしたい。



# 2005 労山フェスタに参加して

みずなら山の会 金森 雅子

横浜から来たバスに新宿で乗り込み、赤岳に登る予定はバスの28人中2人だけと聞き驚く、夜中に清里に到着。夜明け前に起きだしコソコソ仕度するが周りを起こしてしまったよう。到着時に登山口を確認しておいたと言う岡山の男性と3人で出発。

安全に配慮された遭対のチェックポイントを通過して赤岳山頂。頂上からの眺めは富士山、南、中央、北アルプス、西上州、奥秩父の山々と360度の大パノラマ、素晴らしい展望が全国の仲間を歓迎してくれました。下山後に受付を済ませると、みずならの中山会長、懐かしい人、私を覚えていて声をかけてくれる人、人との出会いは楽しい。

17日の夜は、冒険小説家・椎名誠さんの「辺境の食卓」講演、誰もが体験できないアラスカ奥地でのアザラシの食べ方とか食の原点である意義をあらためて考えさせられた話でした。

18日午前、第6分科会(女性のひろば:息長く登り続けるために)参加。

「体の変化や故障を乗り切るためのトレーニング」トレーナー到着前の時間に、女性委員会からヒヤリ・ハット事例集のアンケート結果報告。大阪の女性の事故後にどう対処したかの体験談「怪我は医者が治すが心は仲間が治す」に心打たれました。

午後は、参加者全員によるテーマ「21世紀-明日の日本の登山を徹底討論」のパネルディ

スカッション。「第13回全国登山者自然保護集会を11月に愛知で開催」全国から多くの仲間が集まっていたことを期待していますとのことでした。

大日岳遭難事故の裁判の経過を事故に遭われた遺族の方の涙ながらの無念な思いの訴えをお聞きして、涙してしまいました。

そして夜は、中秋の名月のもとでの大交流会は、まさに楽しい大人の学芸会。

歌声inミッドナイトは懐かしの歌の大合唱が夜遅くまで続いていたようです。

19日はTシャツのデザインでおなじみとの画家・熊谷榎さんがテーマ「山に恋して!わたしと登山と社会」山に登りながら描いたスケッチを説明しながらのその時の状況や山スキーで雪崩に遭ったお話を伺いました。私がいま一番興味のある山スキーについて書いた「スキーをはけば怖くない」「本当は怖いよ」と言っておられた本を買いサインを頂きました。ショートカットに赤のメッシュのヘアスタイルがお似合の素敵に年を重ねられている女性でした。パネラーか誰かの発言に「労山の労の字を変えなければいけない」?好奇心と体力を維持して、老いても、山に恋して!いこうと思いました。500人を超える全国からの労山の仲間との楽しい集い!

実行委員・スタッフの皆さん ありがとうございました。

# フェスタの感想

相模労山 香取 静子

神奈川でも中高年の女性どうしてクライミングをする機会が少なく、クライミング一筋のわたしは、地方のクライミング情報を聞けると楽しみにしていました。

当日は、中高年=のんびりハイクなのかと、ちょっと期待外れでした。体力がなくなっても、何かを情熱を持って追いかけている人は

きついていると思うんです。そんな話を期待していました。

「60歳すんでもゲレンデに登ろう女性クライミングネット!」を作りたいですね。

ネパールの女性自立支援もしていますので何かの機会に紹介出来たらと思います。物作りより人作り支援です。

(5)骨折事故でも意図的に請求をしない。又事故報告の開示を嫌がる風潮は好ましくない。

(6)事故発生に伴い、会員の山行略歴など個人情報求められるが、その取り扱いと管理には十分な配慮求められる。

5.リ-ダ-育成とリ-ダ-の責任範囲  
(1)リ-ダ-の育成は会の重要課題であるが、焦らず一歩又一歩である。

(2)リ-ダ-・サブリ-ダ-の仕事は、仲間の弱点を知る・構成メンバーのバラツキの調整・初心者サポートが挙げられる。

(3)頑固な男性高齢者をコントロールする手段、自身の実力を認識させる手段はないか。

(4)リ-ダ-・サブリ-ダ-の立場は、技

量・経験に加えその資質も重要な要素である。

(5)リ-ダ-は、会員の持病を知るため、日頃から意思疎通を図る必要がある。

(6)リ-ダ-に求められる賠償の責任は、リ-ダ-としてやるべき当然のことを怠っていないければ問題にならないのではないか。

(7)リ-ダ-に対する賠償責任が過大に吹聴されて、臆病になっているきらいがあるが、会は自己責任の集団で、会員が当然担うべき行為の怠慢まで、リ-ダ-は責任を持ってない。このことを家族にも徹底する必要がある。

以上

自然保護委員会企画丹沢ウオッチング

# 湘南平ウオーキングと平塚市博物館見学報告

12月3日(土)、10時大磯駅に12人(地平線の会2名、アルパインクラブ横浜1名、ミズナラの会1名、小田原ナーゲル山の会1名、久良岐HC1名、藤沢山の会6名)が集まり湘南平へ、自然観察ウオーキングに出発です。吉岡さん(地平線)に木の名前、草の名前など沢山のことを教えて頂きながら楽しくのんびり歩くことが出来ました。

やぶこうじの赤い実、やぶむらさきの紫の実、木々の紅葉など自然の作り出した沢山の色を楽しみました。

色々な花の咲く春にもまた是非訪れてみたいと思います。

湘南平でお昼をとり、平塚博物館まで歩き、指導員から相模川の流域に関するお話を聞きました。 萩原福子(藤沢山の会)



## 大河内彩子さんへ贈る追悼文

みなさん既にご存じの通り、去る平成17年12月3日の未明、神奈川県連遭難対策部部長を長年務められた大河内彩子（おおこうちあやこ）さんが他界されました。長い闘病生活の末の安らかな永眠でした。

一流の山ヤであると同時に、優れた指導者、教育者でもあった彼女は、自分の登山を楽しむだけでなく、県連の活動に積極的に参加され、アルパイン登山リーダー養成学校講師、遭対部長、救助隊長などを務められました。



開放的で明るい性格は周囲の人を元気にし、その人脈は神奈川にとどまらず全国にまで広がり、全国遭対部、レスキュー協議会、山スキー協議会の多くの方々と交流されました。そして「レスキュー技術の参考になるから」とおっしゃって、ケービング（洞窟探検）にも興味を持って実践し、日本洞窟学会のメンバーとも親しくなりました。

それらのエネルギッシュな活動ぶりは、今さら言うまでもなく賞賛と尊敬と感謝の念を人々から与えられるべきものです。

見るからに健康そうで人々の範となるべき彼女でしたが、不幸にも病魔に冒されて、辛い闘病の日々を送ったことと思います。しかしそのような素振りを少しも見せずに、周囲を気づかい、普段どおり常に明るく振る舞っていた彼女の精神力もまた賞賛に値すべきものです。

36歳という若さで亡くなられた彼女ではありますが、その人生の価値は、他の誰よりも意味のあるものではなかったでしょうか。時間の価値はその長さで決まるのではなく、その内容で決まるのだと、その生き方は語っているように思います。

惜しむらくは、もっと長生きしていただいて、もっとたくさんの山に登ってもらいたかった。乾いた花崗岩のリッジを流れるようなムーヴで登っている姿を見たかった。数多くの白いパウダースノーの斜面を滑っている姿を見たかった。そしていつも変わらぬその笑顔、いつまでも山の仲間達に見せていてくれて欲しかった。

今はただ、そう想いを馳せるばかりです。

2006.01.07 遭対部長代行 鳥越章夫（小田原ナーゲル山の会）

## 『送る言葉』

大河内くん、お疲れ様

2005年の5月の丹沢「クリーンハイク」が私との最後の山行になったけれどあの時、「今が一番幸せ」だといっていたね。

新しい家に移ってこれからという時にガンが再発してしまって本当に苦しんだだね。

しかし、やっぱりお前は山ヤだ。

最後の最後まで生きる望みを失わなかった。

亡くなる前の日まで、食事を食べていたそうじゃないか。

11月30日、誕生日のお祝いをした日

君が言った「ここ（私）から向こうのみんなの命を大切に」という言葉が忘れられない。

自分の命がもう残り少ないことをわかっていて、

なお山の仲間のことを心配してくれたんだね。

君が伝えた山岳救助技術、しっかり伝えていきます。

君のやさしさ、救助の基本にします。

県連副理事 兼 救助隊副隊長 入木田実文（みずなら山の会）

## 『残念無念』

初めてお会いしたのは7年前、私が冬の穂高で不始末を起こして東横病院に入院していたときです。なくなるかもしれないパンパンの指に呆然としていたとき、ニコニコ笑顔で病室に入ってきたのが大河内さんとパートナーの宮澤さんでした。彼女らも後立山で凍傷を負いその治療で来ていたのです。顔の広い彼女らのこと、病院内に山の知り合いを見つけては行脚を続けているうち、神奈川の間人がいると聞きつけ、来てくれたようでした。ほぼ初対面だったのですが、とにかくよくしゃべること！そして表情の明るいこと！！宮澤さんが引っ張ってきたキャスター付の点滴台がなかったら、指を切らないといけないかもしれない凍傷患者とは気づかなかったでしょう。最初は面食らったものの、話すうちにどんどん気分が楽になり気持ちが救われたのを覚えています。

それからは主に救助隊の活動でお世話になりました。同い年ということも知りました。ちょっとカッコいい山屋の彼女でしたが面白いこともありました。いつか沢の搬トレで、電気工事のヘルメットをかぶって登っているのを見て、「なんだそのヘルメット」といったら、別の人に「あまい！大河内はヘルメットを忘れておなべをかぶって屏風に登ったことがあるんだよ」と。深刻な病気に罹ったと聞いたのはそれからほどなくのことでした。しかししばらくして復活され、遭対部長になられてからのがんばりが、彼女のすごさをあらわしているようにも思えます。意識の高さ、理想の高さ。健康の不安はおくびにもださず、いつも明るい笑顔で、エネルギッシュに。もともと豊富だった人脈もさらに拡大し、私もそのおかげで県外のいろんな催しや人物に出会うことができました。

瀬谷の病院で「まだまだやりたいことがいっぱいあるのに」と悔し涙を流されていたのを忘れることができません。大河内さんあなたの遺志を継いで・・・、といきたいところですが、そんなにすごいことはすぐにはできないかもしれません。みんなで少しずつ前を向いて歩いていきます。

救助隊隊長 熊谷修治（アルパインクラブ横浜）